

平成22年度事業評価シート(ソフト事業)

1 事業名等(Plan 1)

事業名	生物多様性保全推進事業											
所属名	企画管理部 地域政策課 地域政策グループ											
第七次総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	分野	1	自然	基本 施策	1	恵まれた自然を守り活かす	施策	1	自然を生かしたまちづくり
予算科目	2	1	8	環境政策	費	21850	生物多様性保全推進					事業
	2	1	8	環境政策	費	21899	地域環境対策					事業
					費							事業
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	生物多様性基本法、高山市環境基本条例、高山市環境基本計画											
事業の実施主体	○ 市 市以外→											
事業の実施方法	○ 直営 指定管理 業務委託 団体等補助 その他→											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	市民	受益者数	人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	高山市の豊かな自然環境を保護するとともに生物多様性の保全を推進する。		
概要	事業の実施手法、手順	生物多様性ひだたかやま戦略の実施行動計画の策定 自然保護啓発事業 自然保護に関する団体等への加入、活動に対する補助		
	事業始期・終期	始期	年度から	終期
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 生物多様性ひだたかやま戦略の実施行動計画の策定			

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
区分							
総合計画計画額(当初)				12,750	13,200	13,500	
総合計画計画額(計画額)		5,300	12,750	13,200	13,500		
財源	事業費	5,295	12,750				
	(計画・予算・見込・決算額)	4,323					
	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
	受益者負担	予算額					
		決算・見込					
繰入	予算額						
	決算・見込						
一般財源	予算額	0	5,295	12,750			
	決算・見込	0	4,323				
H17国勢調査 96,231人 32,174世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価							
コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位	%				
コスト	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位	円/人	0	45		
コスト	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位	円/世帯	0	134		
指標	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位	円/人				
指標	その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位	円/人				

【成果面】

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	自然環境学習	資料・出展 算出式	参加者数	単位	人
	活動	目標値	—	—	1,500	1,500	1,500	1,500
	実績値	—	—	456	—	—	—	—
成果	達成率	—	—	0	0	0	0	0
成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標	指標名		資料・出展 算出式			単位	
成果	目標値	—	—					
実績値	—	—						
達成率	—	—						

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	(現状及び判定理由)	生物多様性のめぐみは私たちの命を支えるもの。その保全と持続可能な利用のために必要不可欠。			A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い	目的評価 A
	減少	維持	1	増加		
②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	(判定理由)	昨年度から始まった事業であり、その実績をもとに委託料を設定しているため。				
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	(判定理由)	今年度の利用者数を確認して評価する。				
減小	維持	1	減少			
拡大	維持		減少			
項目	②コスト面					
③成果面	増加	維持	減少			
	拡大					
	維持		0			
減少						
コスト・成果ポジション						E
						第3水準

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→	I「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→	II「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→	III「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→	IV「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→	V「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点

コースによる単価の再設定が必要。

5 今後の方向性(Action)

活動の方針	評価結果に対する改善提案(下記チェック)	現状維持 ■ 改善・継続 ■ 終期設定 ■ 休止 ■ 廃止 ■ 完了
	継続して実施していく必要があるが、健全児の対応だけでなく、障がいを持つ児童生徒への対応やコースごとの単価設定を一考して継続すべきである。	
	次年度の実施方針	障がい児童生徒への対応及びコース別の単価設定。

一次評価 主管課	
評価区分	III
判断の理由	生物多様性の大切さを子供たちに伝えていくためにも継続して行うことが必要。

総合評価		
コスト	成果	評価区分
中	中	III
判断の理由等		
「II」以上の水準に向けた改善が必要		
乗鞍山麓五色ヶ原の森は、自然環境に無理をかけないために入山規制をしているため、損益分岐点をしっかりと定め、適正な入山者数の設定を行う必要がある。また、適正なガイド料についても検討する必要がある。		
生物多様性ひだたかやま戦略に基づく実行計画については早急に策定し、今後の事業計画を示していく必要がある。		